

OMM JAPAN2017 テクニカルディレクター レポート

今年で4回目を迎えた OMM JAPAN は広大なフィールドの元、エリアの制限がありながらも、より本国の THE OMM に近づくべくコースを提供し、参加者にチャレンジな時間を過ごせるよう設定しました。競技チームにとっては、過去最高参加人数約 1,300 人を、チャレンジながらもいかに無事にフィニッシュにたどり着けるようにするか、滞りなく運営をすることがチャレンジングでした。各パート: 計測、スタート&フィニッシュ、安全管理&マーシャル、コース管理、救護とたった 20 数名、そしてイベントを運営するスタッフ、総勢 50 数名のチームでのぞみました。

コースと安全管理の詳細については小泉、村越のレポートをご覧ください。

お詫び

・コントロール 123 (Straight A CP5)について

2 日目 Straight A において、コントロール撤収時刻を間違えるミスをしました。本来なら 13:00 撤収時刻のところを実際は 11:30 に撤収しています。これにより競技中の 2 チームが大きく影響を受けてしまいました。

1 チームは 30 分ほど探している途中運よく運営者に会い本部に連絡、GPS を立ち上げてその場所を確認、そのまま競技を続行しました。もう 1 チームは 1 時間 30 分ほど探し、やむを得ず先に進むことをあきらめ、リタイヤしています。ストレートという競技の特性からスキップして先に進むことはできません。本来あるべき場所にコントロールがないのであれば、その場所をずっと探すことになります。その時点で完走する可能性があったにもかかわらず、運営のミスで奪ってしまったことを深くお詫びします。

このミスは、撤収時刻指示書にある時刻の書き写しを間違えた人為的なミスにより発生しました。今後このようなことがないよう、撤収時刻や撤収体制の見直し、幾度となく事前のチェックをすることにより、参加者がスムーズに競技をすすめるようにしていきます。2 チームには、改めて深くお詫びいたします。

・磁北線について

磁北は日本の本州では西に約 7 度傾いています。イギリス本国でもほぼ同様。今回は本国の地図同様に磁北線が入っていませんでしたが、森林が圧倒的に占める日本の国土と微地形において、オープンで見通しのよいイギリスとはナビゲーションの要素が違ってきます。テクニカルなナビゲーションの要求が高くなればなるほど、この角度は重要になってきます。

本来なら磁北線は入れる予定でしたが、地図作成の過程で複数のスタッフが事前チェックしていたにもかかわらず忘れてしまいました。これによりナビゲーションのストレスを感じたチームもあったかもしれません。結果的に本国と同じ仕様となりましたが、偏角があまり影響のないエリアを除いては入れたほうが良いだろうというのが現時点での見解です。

フェアプレーの精神があって成り立つ競技

OMM の競技ルールの始まりには以下の文が掲載されています。

“このレースは全参加者がフェアプレー精神をもち、かつ安全を確保しながら、競技中の行動、装備に責任を持つというルールを守ることで成り立っています。”

このイベントの特性を最も表している一文です。すべて細かくルール化すると、プログラムや要綱は 100 ページにも及ぶかもしれません。それをあえてしていないのは、自然の中に放りこまれ、自ら考えスタートしフィニッシュへ戻ってくるイベントの柱があるからこそです。そのために、わたしたちはあえてあいまいともいえる言い方をしています。しかしそれがゆえにルールが守られていないチームも見受けられます。なぜそのようなルールにしているか、言い方をしているのか、意識の共有が必要と感じています。

・キャンプ地について

1 日目フィニッシュし 2 日目の朝まではキャンプ地で過ごすことが競技の一部として盛り込まれています。これはフィニッシュすれば朝まで自由にしていよということではありません。この時間はタイムは測りませんが、競技は続いていることを今一度確認してください。競技の終わりは 2 日目のフィニッシュなのです。

・救護体制

プログラムに記載していないためルールの曖昧さがありました。キャンプ地での救護体制はあくまでも緊急事態のためのものです。すり傷、切り傷、捻挫、泥酔等の処置については本来であれば自ら対応せねばなりません。今後は診ることはしても処置を受けた時点、またドクターストップがかかれば失格となる予定です。

・Quiet Area(クワイエットエリア)

見慣れない単語かもしれません。去年から“静かに過ごす場所”としてアンオフィシャルにキャンプ地に登場しました。早くにフィニッシュして楽しく過ごすチームもあれば、真っ暗な中疲労困憊でフィニッシュするチームや 2 日目に備えたいチームもあります。そのような静かに過ごしてすぐに睡眠を確保したいチームための配慮でした。

プログラムに掲載していないのは、当日のキャンプ地が天候等によりどのような状況になるかわからないためです。今後も作りたいとは思いますが、もとより参加者同士が他者を気づかうことが、OMM JAPAN の質をよりよくし、楽しいものにするのではないのでしょうか。みなさん自身が日本で始まったばかりの OMM の伝統を作る 1 人になるのです。

・落とし物について

必携装備であるにもかかわらずグローブを始め多くの落とし物がありました。自然の中に分解されない物、まして競技中の落とし物があることは許されません。

落とし物は参加者以外、他者から見ればただのゴミです。必携装備のルールを守っていないこと自体いかなることかと思いますが、そもそも自然の中にそういったものを落としてしまうことはどうということなのかを考えましょう。装備をより軽くすることを考え実践することも楽しみの 1 つかもしれません。一方で、自ら

の荷物を重くしながらもゴミの散乱を防ぎ、フィニッシュまで届けてくれる参加者がいることに感謝しましょう。

・競技エリアの下見

OMMの1つの特徴として競技前日に競技エリアの地図を公開することがあげられます。これを見ることにより参加者のみなさんがどのようなコースになるのか、ワクワク度もあがり、また事前準備もより念入りにできる手助けになるでしょう。

しかし残念ながら、前日昼間に受付をすまし、公開地図でチェックをしその後車で周辺を下見するチームがいました。先に書いたようにフェアプレーで成り立つ OMM においてそのような行為は失格に値します。残念という他ありません。OMM の精神を理解している人たちが参加していると思いたい、そのためにはどうしたらよいのでしょうか。わたしたちも考えねばなりません。

・スタート時刻の徹底

1,300 人のスタートをたった 7 人のスタッフでスムーズに運営することは、参加者の協力も大きくありました。ありがとうございました。しかし一部故意にスタート時刻を遅らせスタートしていくチームもありました。

自らの時間管理をきちんとすることも競技の一部です。運営のスタート体制も OMM 精神にのっとり、細かなスタート前チェックはしていません。スムーズにスタートできるようにしていることをご理解いただくとともにスタート時刻は守るようにしてください。

おわりに

装備の準備はもちろん、ルールを理解、プログラムの熟読、スタート時刻の把握、正しい地図を取ること。そのうえでスタートに立ち、フィニッシュに向かってほしい。これからも OMM JAPAN が続いていくために大切なことです。それによりみなさんが楽しめる、チャレンジできる時間になっていくのだと信じています。よりよい準備と体制をわたしたちも作っていきます。

最後に、参加したすべてのみなさんに、一緒に運営してきたスタッフのみなさんに、イベントの無事成功できたことを感謝します。みなさんがいいイベントだったと言ってくれたこと、フィニッシュでのステキな笑顔がわたしたちの次への糧となります。

来年、みなさんにお会いするのを楽しみにしています。

テクニカルディレクター 田島利佳